

パイロット一日体験：訓練生、新たな世界へ *Cadet soars to new heights with Pilot for a Day*

August 13, 2020

By Airman 1st Class Briana E. Bolfig
374th Airlift Wing Public Affairs

子供の頃に大人になったら消防士や科学者、医者になりたいと夢見る者もいるが、横田民間航空パトロール監督官であり訓練生(チーフ・マスター・サージェント)のカイレア・デレオンは、より高い夢を目指している。

デレオンは、静かな雲の上でエンジンを轟かせ、眼下に遥か遠くの地上を眺める、パイロットとしてのキャリアを体験したいと望んでいる。

第36空輸中隊とC-130Jスーパーハーキュリーズのパイロットのアレックス・アトウッド中尉の協力を得て、8月7日、横田基地で「パイロット一日体験」が行われ、その夢が現実のものとなった。

第36空輸中隊司令のスティーブン・マッシー中佐は、「パイロット一日体験」は、航空業界のキャリアがどんなものがを示す絶好の機会だ。そして、参加者が我々の中隊の一員となれる、まさに“最高の体験の機会”だと述べた。

この日は、第36空輸中隊の乗務員装備課の見学から始まり、デレオンは暗視ゴーグルが付けられたパイロットのヘルメットや、乗務員が飛行中に使用する浮揚装置などを体験した。

それに続き、デレオンはブリーフィングに参加し、同中隊とC-130の歴史を学んだ後、実際に航空機に搭乗した。

機体に乗ると、デレオンと一緒に飛行するパイロットとロードマスターと会い、離陸前にチームと共にミッションブリーフィングを行った。

アトウッド中尉は、「次世代の若者とこうした体験を共有できることは素晴らしいことだ。彼らは飛行機が飛んでいるのは見るが、実際に飛ぶのとは全く違う。将来、彼らができることに気づくことは、大きな自信につながる」と述べた。

デレオンは、この経験を通じてパイロットになりたいという思いをさらに強くした。

「このプログラムを通じて、実際に多くの体験ができた。航空に関するさまざまな側面の教育、またそれが達成できる目標であることを教わった。一日中本当に楽しかった」とデレオンはプログラムを振り返った。

訓練生として、学んだことを実践する機会は常にあるわけではないとデレオンは述べた。彼女は、航空電子工学やパイロットになることに興味を持っている若者や士官候補生に、この体験に参加することを薦める。

一日の終わりに、デレオンは第36空輸中隊のヘリテージルームでピザを食べたり、パイロットと歓談したりして、パイロットのキャリアに関する知識をさらに広める機会を得た。

「学んだことを持ち帰り、家族や友人に伝え、また飛行機に興味を持ってくれることを期待している。空は、親しみやすく、楽しい場所だ」とアトウッド中尉は述べた。

